

## 「透明感あふれる美老男」

いまひとつ人気が出ない少女アイドルの未留久と、その母親の安田美貴は、所属事務所「ピンクキャッシュ」のマネージャーである柴原に呼び出されます。未留久の事実上の契約打ち切りを告げた柴原は、未留久のかわりにその祖父を、新たにアイドルとして売り出すことを提案します。

昼寝が趣味の父親とバブル時代が忘れられない母親。長女の未留久の少ない稼ぎを当てにして日々の生活にも困窮している安田家の人々は、柴原の提案に乗っていきます。

無口でぼんやりとした性格で、顔だけがきれいなおじいちゃん、所属事務所のプランに従って写真撮影やオーディション、ライブなどに出演し、清田透明感という芸名で呼ばれるようになります。その薄幸そうな、「透明感のある」「儂げな」雰囲気を取りにしようという柴原の目論見はみごとにヒットして、清田透明感知名度を上げていきます。

清田透明感のブレイクが確実となる予感の中で、柴原はおじいちゃんをホテルに住ませて家族と引き離そうとします。未留久はおじいちゃんを守ろうと秘密の電話番号を渡して注意喚起しますが、本人はのんきに笑うばかり。そんな矢先に清涼飲料水のCM撮影が行われ、妥協しない厳しいディレクターの要望に応えて真面目に走り続けたおじいちゃんは、発作を起こして急死してしまいます。

ブレイク寸前だった「美老男アイドル」の急死の一報は、

瞬く間にワイドショーの話題をかつさらい、清田透明感は一躍、誰でも知っている人気アイドルに。その人気は日本だけでなく、あつというまに世界的なものになります。「ピンクキャッシュ」は、おじいちゃんの生前に、年寄りだからそんなに長生きしないだろうと見越して写真を撮りためておいたのですが、それが大正解。残された写真や映像を縦横無尽に使って、バーチャルアイドルとしてゲームやグッズなどをどんどん作り出し、急死の話題性ともあいまって商品はヒットとなります。

天涯孤独の身として売り出された清田透明感の大ヒットの恩恵は、安田家にはあまりまわってきませんでした。同じようにアイドルとして家族に売られ、おじいちゃんの活躍に複雑な思いを抱いていた未留久は、その没地に建てられたモニュメントに、真っ赤な彼岸花と、真っ二つに切ったスクール水着をお供えします。